

化粧品イスラム開拓の夢

豚・アルコール不使用「ハラル」



マレーシアから来た大学生たちは、ハラル化粧品の保湿ジェルを試していた＝東京都新宿区、西畑志朗撮影

中小の化粧品メーカーが中心になって、アルコールや豚由来の原料を使わないイスラム教徒向けの「ハラル」の化粧品をつくった。巨大市場ながら、二の足を踏む大手メーカーも多いイスラム圏への進出に、つなげたい。また試作品だけでなく、夢はふくらむ。

発発地 域業企

髪の毛をみせないように頭から長いスカーフを着いたイスラム教徒の女性たち

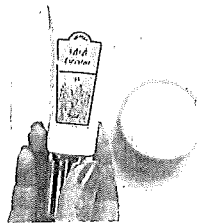
が、順番に化粧水を手にとり、ほおに少し塗っていった。手にUVクリームをすり込む人もいた。都内で11月にあった国際学会で試していたアイシャドウ・アイバ・ジュマリアン(28)は、マレーシアの大学生。あだん輸入化粧品を扱うことも多く、試作品を試してみても、「使い心地はいい。まわりの若い子たちはメイクが好き。日本の製品は品質がいいので、ぜひ使いたい」と話してくれた。

巨大市場狙い 中小の挑戦

まだ試作品だが、これらは香料や原料にアルコールや豚由来の成分を使っていない、イスラム教徒向けの「ハラル化粧品」。イスラム法は豚やアルコールを不浄として禁じており、ハラールは「認められた」という意味のアラビア語。各国の認証機関からハラールの認証マークを得た食品や化粧品、医薬品が販売されており、イスラム教徒に安心感を与えている。

試作品は、石田香粧(東京都台東区)の埼玉県戸田市にある工場が作った。イスラム教徒の女性は1日5回のお祈りの時間にメイクを落とす、スカーフを外したときに顔の日焼けが目立つことを気にして美白に関心が高い。そんな話

ハラール化粧品の試作品



共同研究に参加し試作品を作ったもう一つのメーカー、コスメイェンス(朝霞市)の井上馨マーケティング部長は「中小企業は機動力の良さが強み。ハラール化粧品の生産は技術的には対応できる。販路が見つければ売れ込んでいきたい」と話す。イスラム教徒はいま16億人、30年には約22億人と言われる。人口減が進む国内と異なる市場は魅力的に映るが、ハラール対応を求める度合いや好みには個人差があり、売れる商品づくりは

好みに差 大手は慎重

時期に見据える。8月に原料の成分調査を始めてから完成まで約3カ月。石田社長は「取引先のメーカーから、由来や製造工程を書いた紙を提出してもらおうに苦労した」と話す。アルコールを使わずに清潔感を出す工夫もした。後押ししたのは、埼玉県が主導した共同研究だった。マレーシアとのつながりも深い城西大学(坂戸市)の指導を受けながら、産官学連携で、インドネシアやマレーシアなど、イスラム教徒が多い国での商機を探る。

顔認証で「ダフ屋」防止

ファンクラブで写真登録→入場時に照合

NECは5日、ファンクラブ向けのチケットを高額で転売する「ダフ屋」を顔認証で見破る仕組みを開発したと発表した。ファンクラブに入会時に登録した顔写真と照らし合わせ、コンサート会場などの入り口で本人かどうかを確認できるという。

ファンクラブの会員になると、コンサートなどのチケットを一般発売前に買えたり安く買えたりする特典がある。この特典をねらっ

て会員になり、インターネットや会場近くでチケットを高額で転売するような偽のファンもいる。NECはファンクラブの運営管理を請け負う「ニイパース」(東京)のチケット発券システムに顔認証の技術を提供する。入会時に登録した写真で目と鼻の距離などの特徴をつかみ、会場入り口のカメラで本人かどうかを確認できる。確認できない場合は入場できないようにするという。(伊沢友之)

2011年に発行された1000円貨幣にある、世界の有名な建築物が描かれたシリーズの一つとしてつくられた。大仏の部分は、コインから少し動かせるよ。

鎌倉の大仏

大手化粧品会社は、慎重だ。資生堂は、ベトナムの工場に12年にハラール認証を取り、マレーシアで「Zia」 というブランドでスキンケア28商品の販売を始めた。試験販売は続けるが、今後の展開は未定という。

マンダムやマレーシアはインドネシアやマレーシアなどへ売り込むが、ハラール対応はしていない。マンダム広報IR室は「食品ほどハラールにこだわらない人もい

る」として、他社や市場の動向を見極めるという。イスラム圏でのビジネス展開を支援するハラール・シヤバハ協会(東京)の佐久間朋宏代表理事は「原料からコントロールする必要がある。受託製造が多い化粧品業界ならではの難しさがある。ただ、きちんとマーケティングをすれば、イスラム圏への進出のチャンスはある」と指摘している。(瀧原)